

課 題	22 人工造林による広葉樹用材林施業体系の確立			開発期間	平成8年度～平成17年度		
開発箇所	上下田国有林608ね 、な外3 5.61ha	担当部署 森林技術センター	共 同 研究機関	技術開発 目 標	3(1)	特定区域 内 外	○
開発目的 (数値目標)	建築用材、器具材等の幅広い広葉樹用材の需要等に対応するために、有用広葉樹の特性を考慮した人工造林による広葉樹用材林の育成技術の体系化を図る。						
実施経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年度から、人工造林による広葉樹用材林の育成技術の体系化を図るため、順次試験地を設定し、保育並びに生長量調査（根元径、樹高）を実施した。 ヤマグワ、600本 スギ300本（混植） 計 0.21ha（樋谷山） 4,300本/ha</li> <li>・平成9年度 ヤマザクラ 2000本区/ha 0.47ha、3000本区/ha 0.38ha、4500本区/ha 0.35ha 計 1.20ha（上下田） ユリノキ 750本 計 0.62ha（上下田）</li> <li>・平成10年度 イヌエンジュ 3000本区/ha 0.18ha、4000本区/ha 0.18ha、5000本区/ha 0.14ha 計 0.50ha（三光山）</li> <li>・平成11年度 オニグルミ 3000本区/ha 0.33ha、3,900本区/ha 0.38ha、ヒノキ混植3900本区/ha 0.38ha、 クヌギ混植3,800本区/ha 0.40ha、ヒノキ植栽3,300本区/ha 1.59ha、 計 3.08ha（小吹山）</li> <li>・平成12年度 ヤマザクラにてんぐ巢病が発生したので、てんぐ巢病枝の切除と切り口への薬剤（トップジンMペースト）塗布した。 オニグルミ植栽地にササが繁茂したので、ササ覆地に林地除草剤（フレノック）を120kg散布。</li> <li>・平成9年度～平成17年度 下刈、林内整備、生長量調査（根元径、樹高）を実施した。 *各種生長量調査結果は別紙のとおり。</li> </ul>						
開発成果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマグワ : 現在のところ生長が遅いが順調に生育しているので枝打等が必要。</li> <li>・ヤマザクラ : 現在のところ、順調に生育しているが、一部、天狗巢病の被害が見られる。また、用材林にするためには、枝打等が必要。</li> <li>・ユリノキ : 現在のところ順調に生育しているが、用材林にするためには、枝打等が必要。</li> <li>・イヌエンジュ : 生長については、別紙のとおりで生長が良くない。原因として考えられるのは、試験地は地形的に山頂部の乾燥地である。また、平成14年の夏季の大干ばつの被害を受け立枯れが発生したことによるものと考えられる。このことから、今後、広葉樹用材林としての調査が困難なことから完了とする。</li> <li>・オニグルミ : 生長については、別紙のとおりで、生長は良くない。原因として考えられるのは、試験地は山脚部で乾燥を受けやすい地形である。また、平成14年の夏季の大干ばつの被害を受け、生長が鈍化したことによるものと考えられる。このことから、今後、広葉樹用材林としての調査が困難なことから完了とする。</li> </ul> <p>以上のことから、試験期間での結果、広葉樹は、スギ・ヒノキなどに比較し土地への適応性が低く、樹種により、生長が左右されることが改めて分かったことから本課題は完了とするが、生長の良いヤマグワ、ヤマザクラ、ユリノキについては、本課題目的である用材生産の可能性が高いことから、引き続き新規課題として有用広葉樹の育林技術に取り組む。</p>						